

## 21 環境にやさしい農業「ラムサールふゆみずたんぼ米」と「ラムサールホンモロコ」

### ①ラムサールふゆみずたんぼ米

稲刈り終了後、田んぼに水を張り、冬から春にかけて水を貯めておくことで、稲の切り株やワラなどが水中で分解され、微生物や藻が発生し、自然の施肥効果が生まれます。その後それらを餌とするイトミミズやユスリカ等のほか、ドジョウやカエル、小魚など様々な生き物が田んぼに集まり、豊かな生物環境を作ります。またそれらの生物活動が形成するトロトロ層という抑草効果のある層によって雑草が抑制され、農薬に頼らない安全安心な農法が進められるようになります。



稲刈り後に水を張った水田 [2016年2月7日撮影]



田植え後の水田 [2015年6月7日撮影]



◎ 小山市立教育研究所

収穫間近の水田 [2015年9月19日撮影]



◎ 小山市立教育研究所

i稲刈り後の水田 [2015年9月27日撮影]

### ②ラムサールホンモロコの養殖

ホンモロコは、コイ科タモロコ属に属する淡水魚の小魚です。養殖池となる土質のよい田んぼときれいな井戸水を利用し、4月に卵から孵化させ、稚魚にはミジンコを与え、その後は一日数回、自動給餌機を用いて配合飼料を与え、10月以降、体長が6~7センチほどに成長したものを出荷します。池の水は野鳥からホンモロコが身を隠すことや池の底に生える不要な藻の繁殖を防ぐため、植物プランクトンの繁殖をコントロールして緑色に保っています。また、酸欠にならないようにスプリンクラーを回したり、井戸水だけを使い、水を清潔に保つなど、健康な魚を育てるために高タンパク質で良質な飼料だけを使い、水産用医薬品は一切使用しないなど、池の管理には細心の注意を払っています。



◎ 小山市立教育研究所

卵から孵化した稚魚を池に放流 [2014年4月28日撮影]

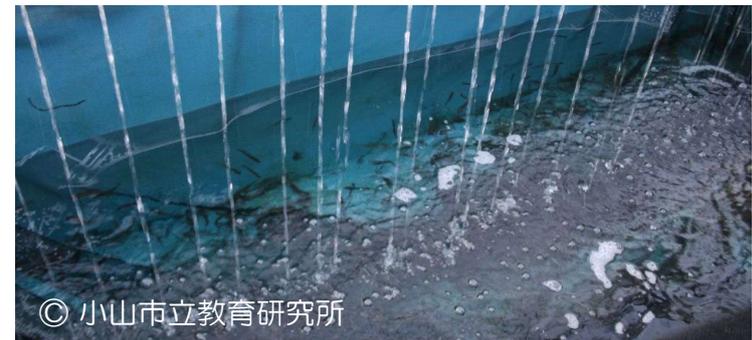


◎ 小山市立教育研究所

養殖場と自動給餌機 [2014年10月30日撮影]



◎ 小山市立教育研究所



◎ 小山市立教育研究所

池から水揚げしたホンモロコは、井戸水で1週間泳がせて、泥臭さを抜いてから出荷 [2015年11月22日撮影]